日本パブリックリレーションズ協会会員誌

PRSJ PUBLIC RELATIONS SOCIETY OF JAPAN NEWS

2012年7月
NO. 232

TOPICS

「理事長就任にあたって　～2期目に向けて～」
(公社)日本パブリックリレーションズ協会　理事長　森　健
MESSAGE P3

「副理事長・常務理事・理事・監事ご挨拶」
ATTENTION P4

「新体制決まる」
ATTENTION P9

「広報PRアカデミー2012
PRプランナー1次試験対応講座を7月24日より開講」
ATTENTION P11

「第11回PRプランナー資格認定検定試験
受験予約締切迫る！受験予約は7月13日(金)まで！」
ATTENTION P12

公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会

〒106-0032 東京都港区六本木6丁目2番31号　六本木ヒルズノースタワー
5F 電話(03)5413-6760　ファックス(03)5413-2147
URL　http://www.prsj.or.jp/

関西支部　〒530-0003 大阪市北区堂島2-1-27 桜橋千代田ビル3F
電話(06)6344-3002　ファックス(06)6344-3005

発行人:森　健

7月号　目次

7月・8月のスケジュール		1
MESSAGE(メッセージ)	「理事長就任にあたって　～2期目に向けて～」	3
ATTENTION(お知らせ)	「副理事長・常務理事・理事・監事ご挨拶」	4
〃	「新体制決まる」	9
〃	「広報PRアカデミー2012 PRプランナー1次試験対応講座を7月24日より開講」	11
〃	「第11回PRプランナー資格認定検定試験 受験予約締切迫る！」	12
BULLETIN(活動報告)	「広報PRアカデミー2012 広報・PRプロジェクト最新事例セミナー第2回を開催」	13
〃	「広報PRアカデミー2012 PRプランナー3次試験対応講座を開講」	14
〃	「広報PRアカデミー2012　基礎コース「ソーシャルメディア基礎講座」を開催」	15
〃	「第6回PRプランナー交流会を6月22日に開催」	16
〃	「第7回企業部会フォーラム メディア研究会開催報告」	18
REPORT(講演レポート)	「第140回定例研究会開催報告」／「第141回定例研究会開催報告」	19
PR TREND(PRトレンド(国内)	「ELトレンド指数で見るキーワード・ランキング2012年5月度」	20
PR TREND(PRトレンド(関西)	「関西の風：“民の力”で進化し続ける『通天閣』」	21
PLAZA(会員便り)	「㈱タカオ・アソシエイツが「報道分析の手引き」を作成」	22
〃	「ブルーカレント・ジャパン㈱　本田哲也氏が「ソーシャルインフルエンス」を発刊」	23

表4

7月～8月スケジュール

広報PRアカデミー2012 **PRプランナー試験対応コース** **「3 次試験対応講座」**	日　時 会　場	： ：	7 月 4 日(水)･11 日(水) 全 6 回 いずれも 19:00～21:30 六本木アカデミーヒルズ 49
広報PRアカデミー2012 **専門･応用コース** **「第 6 回ｿｰｼｬﾙﾒﾃﾞｨｱ実践講座」**	日　時 会　場	： ：	7 月 9 日(月) 19:00～21:30 六本木アカデミーヒルズ 49「オーディトリアム」
第 7 回広報ゼミ(企業部会)	日　時 会　場 テーマ	： ： ：	7 月 17 日(火) 18:00～20:00 富士通ラーニングメディア 品川本社 「広報組織論」
会員納涼懇親会	日　時 会　場	： ：	7 月 20 日(金) 18:30～21:00 原宿「ベニーレベニーレ」
第 10 回PRプランナー資格認定 **検定 3 次試験**	日　時 会　場	： ：	7 月 21 日(土) 12:00～ 富士通ラーニングメディア品川ラーニングセンター(東京) 富士通ラーニングメディア関西ラーニングセンター(大阪)
広報PRアカデミー2012 **PRプランナー試験対応コース** **「1 次試験対応講座」**	日　時 会　場	： ：	7 月 24 日(火)･31 日(火)･8 月 7 日(火)･21 日(火) 全 4 回 いずれも 19:00～21:30 六本木アカデミーヒルズ 49
第 11 回PRプランナー資格認定 **検定 1 次試験**	日　時 会　場	： ：	8 月 26 日(日) 10:20～ 東京聖栄大学(東京) 毎日インテシオ(大阪) 北海道建設会館(札幌)

7月の理事会・委員会・部会スケジュール

定例理事会（７月度）	日　時	：	７月 10 日（火）　12：00～14：00
	場　所	：	六本木ヒルズクラブ
幹部会（経営会議）（７月度）	日　時	：	７月 10 日（火）　10：30～11：45
	場　所	：	協会会議室
教育委員会（７月度）	日　時	：	７月　４日（水）　12：00～14：00
	場　所	：	協会会議室
資格委員会（７月度）	日　時	：	７月 26 日（木）　12：00～14：00
	場　所	：	協会会議室
交流委員会（７月度）	日　時	：	７月 19 日（木）　12：00～13：30
	場　所	：	協会会議室
広報委員会（７月度）	日　時	：	７月 24 日（火）　17：00～19：00
	場　所	：	凸版印刷㈱
ＰＲ小委員会（７月度）	日　時	：	７月 24 日（火）　16：00～17：00
	場　所	：	凸版印刷㈱
出版小委員会（７月度）	日　時	：	７月 18 日（水）　16：00～18：00
	場　所	：	協会会議室
顕彰小委員会（７月度）	日　時	：	７月 18 日（水）　12：00～14：00
	場　所	：	協会会議室
企業部会幹事会（７月度）	日　時	：	７月　５日（木）　17：00～18：00
	場　所	：	協会会議室
ＰＲ業部会幹事会（７月度）	日　時	：	７月 12 日（水）　16：00～18：00
	場　所	：	協会会議室
ＩＴ委員会（７月度）	日　時	：	７月　６日（金）　12：00～14：00
	場　所	：	協会会議室

理事長就任にあたって　～2 期目に向けて～

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会
理事長　森　　健

5 月 30 日に開催されました公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会としての第 1 回の通常総会にて、新しい執行部が誕生をいたしました。任期期間であるこれからの 2 年間、理事一丸となって、協会活動に専心をいたしてまいります。よろしくお願い致します。

昨年度は、東日本大震災の影響もあり、年度の前半においては協会活動についても、各種のプログラムへの参加人員などにおいて計画を下回る事もあり、協会としても危機感を募らせました。そうした状況を前にして、初心に戻り、

① 協会プログラムの価値の向上
② 協会組織のさらに効率的な運営
③ 協会組織の強化

に注力をいたしました。おかげをもちまして、下期からその成果もあらわれ、年度トータルとしては黒字で終えることができました。皆様方のご理解、ご協力に深く感謝をいたします。

さて、今年度は、公益社団法人として最初の年であります。広報・ＰＲ活動の教育・啓発、またそれを担うＰＲパーソンの育成など、広く社会に開かれた協会としての活動を今まで以上に充実させ、また、会員の皆様の相互交流の機会の増大などにも、積極的に取り組んでまいります。そのために、従来 7 つあった委員会を 4 つの委員会に集約するなど、組織体制の変更も実施をいたしました。当協会の良き伝統は継承しつつ、新しい時代に対応した新しい協会の活動内容、組織・運営体制を模索してまいります。

近年は、広報・ＰＲ活動の重要性への認識も深まり、社会的ニーズもますます高くなってきています。また一方では、やらせの問題、スティルス・マーケティングに注目が集まるなど、広報・ＰＲの信頼性を問う声も聞こえてきます。協会としてチャレンジすべき課題も山積しております。こうした課題に果敢に取り組み、公益法人化元年＝協会の第二章を実り多い年にしたいと存じます。

皆様方の変わらぬご支援、ご協力のほど、よろしくお願いを申し上げます。

ATTENTION

副理事長・常務理事・理事・監事ご挨拶

副理事長　　大石　哲也

4月1日より公益社団法人の認定を受け、公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会として新たなる船出を迎える事が出来ました。この新たなる船出に副理事長を拝命し身が細る思いですが、会員の皆さま、各理事はじめ各委員、また事務局のお力添えを頂き、なんとか任期2年を無事お役にたつ様精進させて頂く所存です。公益社団法人化により従前の協会活動に加え“公益性”がより重視される事、また　協会の正しい経営責任があげられます。公益事業の充実と明確な協会経営を律する為に、今年度より委員会統合など新組織体制をとる事となりました。これまでの会員相互の交流、親睦、加入メリット等も、より充実させて会員拡大に向かうパワーも蓄積しなければなりません。新たな価値の創出が叫ばれる我が国の状況と同じく、会員の皆さま一人一人のご理解とご協力を得て、2年後のゴールへ向かいたく思います。どうぞ　引き続きご支援程よろしくお願い致します。

副理事長　　山田　悦朗

昨年はＩＴ委員会、国際委員会を担当させていただきましたが、今年は企業部会担当の副理事長を仰せつかりました。企業部会は前任の礒井副理事長が様々なアイディアを出して引っ張ってこられ、活性化しております。その流れを引き継ぎ、企業部会会員相互の交流がより活発化し、お互い刺激を受けて、知見の広がりやスキルのレベルアップにつながるような活動を展開していきたいと考えます。当然広報担当者の異業種交流会そのものですので、その過程で様々な人的ネットワークを構築していただければ幸いです。具体的には従来のメディア研究会を取り込んで今の広報課題をテーマに研究する「企業部会フォーラム」、広報先進企業の活動を学ばせていただく「広報活動研究会」、さらには記者のホンネや他社広報担当からあまり外には言えない広報事例などをクローズドな形で勉強する「広報ゼミ」を中心に展開していきます。是非ご参加のほどを！

副理事長　　渡邉　幹夫

このたび副理事長と広報委員長を拝命いたしました。
今年度の組織改変では、独立していた「広報」「顕彰」「出版」の相乗効果を高めるために、これらの情報発信業務を「広報委員会」に集約し、その下に「ＰＲ小委員会」「顕彰小委員会」「出版小委員会」を設置しました。今後は、広報の社会的認知を高め日本における広報活動の質的向上を図り広く社会に寄与する使命をもつ、当協会の認知とステータスをさらに高めていきたいと考えています。また、近年広報活動には社会的視点がより求められ、Public Relations の言葉が示すように、社会とのより良い「関係性創り」がますます重要になっていると感じています。こうした考えを基に、公益社団法人として Public Relations を通じて、一個人や一企業だけでは実現できない社会的課題や要請に対しても取り組んでいきたいと思います。ぜひ、会員皆さまの活動へのご支援と積極的な参加をお願いいたします。

副理事長　　菊地　彰夫

近年、経済や社会の環境変化は著しく、情報通信技術の急激な発達とソーシャルメディアの普及等、広報・ＰＲの領域は大きな転換点を迎えています。広報・ＰＲの第一線で活躍するＰＲパーソンの育成、広報・ＰＲの社会的認知の向上と社会的地位の確立に向けた取り組みが一層期待されるこの新しい時代に、副理事長、教育委員会委員長の大役を担うこととなり、身の引き締まる思いです。教育委員会は、広報・ＰＲの基礎的および専門的知識の習得、最新のビジネストレンドや情報環境の理解、会員、有識者やメディア等関係者との交流を通じた研鑽機会の設営等を実施しており、公益社団法人の活動の柱として、その重要性は増しています。多くの会員の方々が、教育委員会の活動を通じて本協会の意義と成果を感じていただけるよう、全力で取り組んで参ります。
今後とも宜しくご支援ご協力を賜りますよう、お願いを申し上げます。

常務理事　　中里　好宏

6月1日付で新たに常務理事に就任いたしました。森理事長はじめ副理事長、理事の皆様をサポートし、協会のより一層の発展のために微力ではございますが精一杯尽力させていただく所存でございますので、改めてよろしくお願い申し上げます。今年度は「公益社団法人」認定を受けた初年度であり、協会の各種活動には今までにも増して公益性が求められることになります。会員の皆様のご協力を仰ぎながら「役立つ協会」「魅力ある協会」としてより多くの会員にメリットを感じていただくと同時に、一人でも多くの方々に新規ご加入いただける協会となるよう努力してまいりたいと存じます。また、事務局長や協会の方々とも連携し透明性の高い協会運営にも努めてまいります。就任間もなく不慣れなことも多々あり皆様にはご不便をおかけすることがあるとは存じますが、何卒ご支援くださいますようお願い申し上げます。

理　　事　　市瀬　朱実

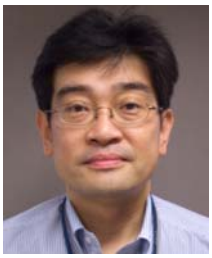
公益社団法人となった当協会の理事として、日本におけるＰＲの一層の普及と時代に叶うＰＲパーソンの育成に全力で取り組んで参ります。
資格制度や教育研修プログラムは当協会の大きな柱ですが、交流委員会の国際担当理事として、日本ＰＲ協会の国際的な認知、並びに国際的な視野で活動するＰＲパーソンの育成にも力を注いで参ります。
皆様のご支援・ご協力をいただきながら、務めたいと存じます。
何卒よろしくお願い申し上げます。

理　　事　　小西池　透

このたび理事に就任し、関西部会を担当することになりました。ソーシャルメディアの台頭をはじめメディアの有りようが大きく変化している今日、企業は状況変化にいかに的確に対応し、訴求力ある広報・ＰＲ活動を展開していくかが重要になっております。微力ではありますが、時代の半歩先を見据えることを心がけつつ、関西からの情報発信活動の活性化、ならびに協会の更なる発展に貢献してまいりたいと思います。
よろしくお願い申し上げます。

理　　事　　金野　祥治

このたび理事に就任いたしました金野祥治です。新生「広報委員会」ではＰＲ小委員会を担当いたします。ＰＲ協会もこの 4 月から公益社団法人となりました。「広報ＰＲの社会的認知を高め、日本における広報活動の質的向上を図り、広く社会に寄与する」というＰＲ協会の基本精神を踏まえつつ、皆さまとともに新しい協会活動のあり方について議論を深めていきたいと考えております。
どうぞよろしくお願いいたします。



理　　事　　坂本　英一

この度、理事に就任致しましたＮＴＴの坂本です。昨年、広報室長となり、20 年ぶりに広報業務に携わることとなりました。経験豊富な諸先輩が多くおられる中、理事をお受けするにあたり、逡巡もございましたが、グループの広報担当社員の多くがＰＲ協会のお世話になっていると知り、少しでもそのお返しができればとお話をお受けした次第です。皆様のご指導、ご支援を頂きながら、私でできることを精一杯務めたいと思います。
何卒宜しくお願い申し上げます。

理　　事　　清水　正道

理事拝命 2 年目を迎えて今想うことは「原点から」です。社会人 2 年目に人事から広報に異動し、社内報担当として読んだ本が「企業内コミュニケーション」でした。その時から雑誌編集者、広報部長時代を含めてずっとＰＲと向かい合ってきました。時代は大きく変わりました。しかし、コミュニケーション機能を生かして「よい社会を築きたい」との願いは変わりません。あの頃“この声届け”とばかりに取材していた頃を想い出しつつ、皆さんの願いに応えていきたいと思います。

理　　事　　杉山　順子

昨年 6 月、ピンチヒッターとしてお受けした理事も二期目に入り、公益社団法人として新生日本ＰＲ協会の第一期の運営を担うということの重みと責任に身の引き締まる思いです。担当である「交流委員会」では、会員アンケートでも常に上位にある、「会員相互のコミュニケーション・異業種の方との横のネットワーク作り」をより増幅できるような企画・運営を心掛けて参りたいと存じます。交流イベントに関する、ご意見・ご要望をぜひともお待ちしております。

理　　事　　辻田　邦彦

合理性の組織委員会と談論風発の国際委員会が統合して交流委員会ができました。今後は両委員会の行事の中で会員からの要望の多く、支持の高かったものをまずは第一に考え実施していきたいと思います。次に、協会のさらなる発展と増強のために国内外の関係団体との連携や協力関係を築いていきたいと思います。公益社団法人となることで、より公益性が重視されるようになりましたが、当委員会のミッションは会員のベネフィットを実現することだと考え、活動して参りたいと思います。

理　　事　　鶴野　充茂

この度､2 期目の理事に就任し､再びＩＴ委員会委員長を拝命いたしました。1 期目は、協会のウェブサイトを一新し、動画配信やネット受講を可能にしました。ソーシャルメディア講座なども開始、インフラ面・コンテンツ面の両方で時代の変化に合わせた仕組みを構築中です。今期はこの取り組みをさらに進め、より多くの皆さんが当協会の会員メリットを感じ、また広報ＰＲの仕事を進めるにあたって役立つものにしたいと思います。
よろしくお願い致します。

理　　事　　野村　武司

広報活動の重要性が指摘されて久しいですが、昨年の東日本大震災を経験して、そのことをあらためて強く感じました。重要性がますます増していく中、社会全体においても広報業務のレベルアップが求められており、協会の活動を通じて少しでも貢献していければと考えています。
特に担当となりますＰＲプランナー試験の運営につきましては、内容の一層の充実と社会への普及につきまして、全力を尽くして参ります。

理　　事　　伴　　一郎

ＰＲ会社が少なく、一般企業会員の多い関西部会。その地域特性を活かした例会。毎回、例会後の懇親会を楽しみに参加される方が多いため、今年もこれをポイントに取り組んでいきたいと存じます。
小西池理事、また、村田新事務局長の新体制のもと、当協会のさらなる発展を遂げられるよう微力ながら頑張る所存でございます。
どうぞお力添えよろしくお願い致します。

理　　事　　柳　　勲

公益性の高い理事としての私の活動は、従来の顕彰委員会活動をバージョンアップしていきます。広報活動の実例をより多く集め、活動の実際の成功例を「賞」を出すだけでなく、そのアイディア、行動、成果などをセミナー形式で共有していきたいと思っています。また、毎年一人のＰＲパーソンを選び出す方法にも工夫をして、誰もがこの人なら、という人を選びます。橋爪氏、髙雄氏が中心となりメンバーの方々がご苦労されていますが、今後もより一層のご協力を切にお願い致します。

監　　事　　岩渕　昭子

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会の監事としてご承認いただきましたことは、大変名誉なことと思っております。大学では簿記会計を中心に教育指導をしておりますが、管理会計の立場から、ＣＳＲ（企業の社会的責任）とコーポレート・レピュテーション（企業の評判）について研究しています。
監事としての職務を果たすことで，本協会に何らかの貢献ができればと考えております。どうぞ，よろしくお願い申し上げます。

監　　事　　西谷　武夫

このたびは，新たに公益社団法人の監事という大役を仰せつかり、身の引き締まる思いです。グローバルとデジタルという国境のない世界で、コミュニケーションが果たす役割は官民問わずきわめて重要になっています。その中で、日本ＰＲ協会が果たす役割は、ますます重要になってきているものと思います。公益社団法人としてのガバナンスも大切です。
微力ですが、しっかりと監事としての役目を果たしたいと思います。

監　　事　　濱岡　　智

このたび監事に選出されましたサントリーホールディングス㈱の濱岡です。公益社団法人に移行したＰＲ協会には、更なる透明性、説明責任が求められます。それと同時に、更なる発展を目指すために、従来のやり方や発想を思い切って変えていく勇気も必要です。理事、監事、会員の皆様と共に、新たなステージに入ったＰＲ協会の発展のために、微力ながら努力を傾注してまいる所存です。
倍旧のご支援を心よりお願い申し上げます。

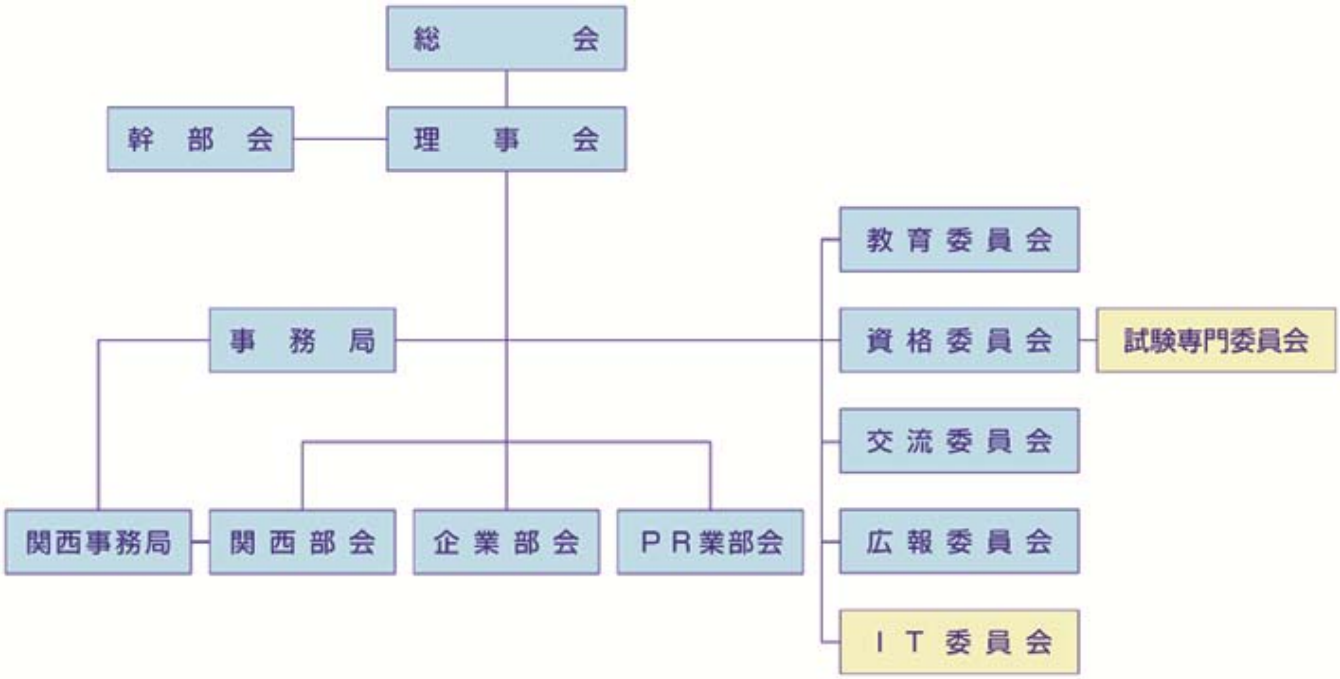
新　体　制　決　ま　る

5 月 30 日(水)の「公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会 第 1 回通常総会」において新たな組織体制と新理事の担務が以下のように決定いたしました。

組織体制及び理事担務のご紹介をいたします。

2 年後の役員改選までの間、この体制で協会活動を推進してまいりますので、会員の皆さまのご協力をお願い申し上げます。

【新組織図】



【理事担務】

（敬称略）

役　　職	氏　　名	担務（担当委員会・部会　他）
理事長	森　　健	全体統括
副理事長	大石 哲也	ＰＲ業部会部会長 交流委員会担当副理事長
副理事長	山田 悦朗	企業部会部会長 教育委員会担当副理事長
副理事長	渡邉 幹夫	広報委員会委員長
副理事長	菊地 彰夫	教育委員会委員長

常務理事	中里 好宏	理事長・副理事長補佐 事務局統括
理　事	市瀬 朱実	交流委員会担当理事
理　事	小西池 透	関西部会担当理事
理　事	金野 祥治	広報委員会担当理事
理　事	坂本 英一	教育委員会担当理事
理　事	清水 正道	資格委員会担当理事
理　事	杉山 順子	交流委員会担当理事
理　事	辻田 邦彦	交流委員会委員長
理　事	鶴野 充茂	ＩＴ委員会委員長
理　事	野村 武司	資格委員会委員長
理　事	伴　一郎	関西部会部会長
理　事	柳　勲	広報委員会担当理事

広報PRアカデミー2012

ＰＲプランナー1 次試験対応講座を 7 月 24 日より開講

--第 11 回 1 次試験に向け受講申込みを受付中--

教　育　委　員　会

日本ＰＲ協会では、ＰＲプランナー１次試験の受験者を対象とした「ＰＲプランナー１次試験対応講座」を、7 月 24 日（火）より 8 月 21 日（火）まで 4 回にわたり六本木・アカデミーヒルズにて開講します。

本講座は受講者にとって効果的な試験対策となるよう、過去の１次試験で出題された問題を使用した模擬試験形式を採用、講師による解答の解説を通じて１次試験に出やすいポイントに関する理解を深めます。本講座の受講により、広報・ＰＲの基本的な知識とともに、1 次試験の形式を確認することができます。

また、本講座では、インターネットを利用し会場外からの受講を可能とした「Web 受講サービス」を提供します。これにより、会場から離れた地方等の遠隔地から受講でき、また講義の動画データのアーカイブの利用により受講者の都合のよい時間に講義を聴講することが可能です（視聴期間限定)。

会場受講は 7 月 20 日（金）まで申込みを受付けます。また「Web 受講サービス」については、講座開始後もお申込みいただけます。当協会では、来る 8 月 26 日（日）には第 11 回 1 次試験を 7 月 21 日に予定しており、本講座は試験準備として最適です。

なお、講座の詳細と受講申込みは以下の協会 Web サイト「セミナー/イベントを探す」(下記 URL) をご参照ください。

http://event.prsj.or.jp/event/prp/3rd_exam

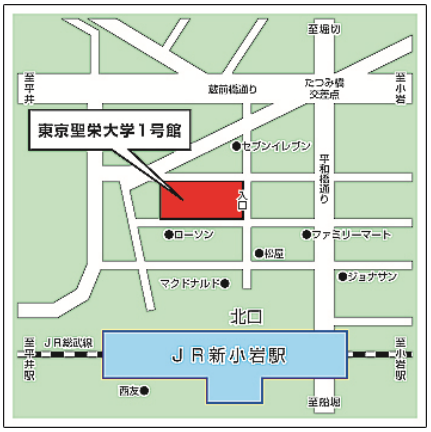
■ＰＲプランナー認定１次試験対応講座の概要

日　程	講　座　内　容	講　師	受講料	申込締切
7 月 24 日 （火） 19:00～ 21:30	模擬試験と解説 ・パブリックリレーションズの基本 ・企業経営とパブリックリレーションズ ・広報・PRマネジメント	真部一善 （公社）日本パブリックリレーションズ協会 事務局次長　教育研修・資格制度担当	**会場受講＋Watershed 視聴** 一般　31,500 円 学生　18,900 円 PR協会会員 21,000 円 **Watershed 視聴のみ** 一般　21,000 円 学生　18,900 円 PR協会会員 21,000 円	**会場受講＋Watershed 視聴** **7 月 20 日(金)まで** **Watershed 視聴** 講座開始後でも受付けます
7 月 31 日 （火） 19:00～ 21:30	模擬試験と解説 ・コミュニケーションとPR ・メディアリレーションズ ・マーケティングとPR	永井　昌代　氏 ㈱プロペラ・コミュニケーションズ 代表取締役		
8 月 7 日 （火） 19:00～ 21:30	模擬試験と解説 ・行政・団体の広報活動 ・国際広報 ・企業と危機管理 ・経営倫理とプロフェッショナリズム	永井　昌代　氏 ㈱プロペラ・コミュニケーションズ 代表取締役		
8 月 21 日 （火） 19:00～ 21:30	模擬試験と解説 ・インベスターリレーションズ ・エンプロイーリレーションズ ・ネットPR	真部一善 （公社）日本パブリックリレーションズ協会 事務局次長　教育研修・資格制度担当		

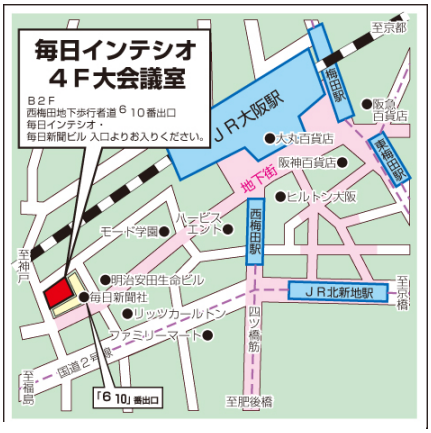
日本ＰＲ協会会員社員の受講料は、法人正会員社員、もしくは個人正会員ご本人様のみとなります。

第 11 回「PRプランナー資格認定検定試験」
受験予約締切迫る！受験予約は 7 月 13 日(金)まで！

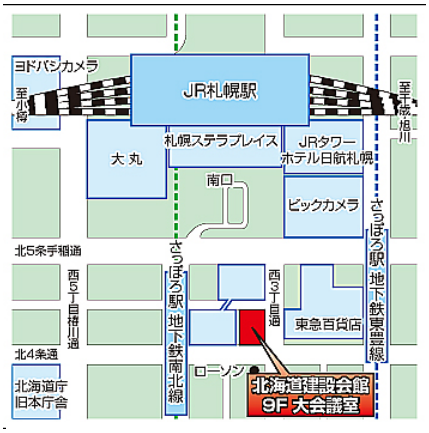
資　格　委　員　会



東京会場



大阪会場



札幌会場

第 11 回ＰＲプランナー資格認定検定試験 1 次試験（実施：8 月 26 日(日)）について、7 月 13 日（金）まで受験予約を受付中です。また、受験申込書送付は 7 月 20 日（金）必着となっております。なお、受験予約申込は、7 月 13 日（金）までとなっておりますが、定員に達し次第締め切らせていただきますので、予めご了承くださいますようお願い申し上げます。

今回の当協会ニュースでは特別に参考問題を掲載させていただきます。(予想正答率:90%以上)
※正解は、次号 8・9 月合併号にて公表いたします。

◇試験実施日程、会場

1 次試験　2012 年 8 月 26 日（日）東京・大阪・札幌
2 次試験　2012 年 11 月 18 日（日）東京・大阪
3 次試験　2013 年 1 月 26 日（土）東京のみ

◇受験応募・申込方法

協会資格ホームページにアクセスし、受験予約を行った上、事務局宛お申込ください。
詳細はホームページをご覧ください。
http://pr-shikaku.prsj.or.jp

参考問題にチャレンジ！－コミュニケーションとＰＲ－

広報活動には、マスメディアが大きくかかわっている。マスメディアのコミュニケーション理論について述べた次の記述のうち、最も不適切なものを1つ選びなさい。

a. 弾丸理論とは、マスメディアにより発信される情報が、弾丸のように強く、直接的に対象に影響を及ぼすという考え方である。
b. 二段階の流れとは、マスメディアにより発信される情報が、地震の波のように 1 回目は弱く伝わり、2 回目には強い影響を及ぼすという考え方である。
c. 議題設定機能とは、マスメディアにより発信される情報が、公共の問題について人々の議題、その重要度や優先順位を決定するという考え方である。
d. 沈黙の螺旋とは、マスメディアにより発信される情報が、特定の意見のみ唱道すれば、反対意見は沈黙し、時間とともに特定の意見が支配的になるという考え方である。

広報PRアカデミー2012

「広報・PRプロジェクト最新事例セミナー」第 2 回を 6 月 14 日　博報堂本社にて開催

教育委員会・顕彰委員会

6 月 14 日、第 2 回となる「広報・ＰＲプロジェクト最新事例セミナー～ＰＲアワードグランプリ表彰企業の取り組みに学ぶ」を博報堂東京本社・大会議室にて開催いたしました。

第 2 回のセミナーでは、「ＰＲアワードグランプリ 2011」における「グランプリ」及び「コーポレート・コミュニケーション」部門最優秀賞を受賞した 2 つの事例に関する講演、またブレーメンコンサルティング株式会社 代表取締役の岡本享二氏により講評と講演「PR アワードグランプリ 2011 に見るＰＲの現在とこれから」が行われました。

会 場 風 景

会場の博報堂本社・大会議室には、約 100 名の聴講者が訪れ、「コーポレート・コミュニケーション」部門最優秀賞を受賞した宇都宮市のシティ・ブランド創造、「グランプリ」を獲得したさいたま市のユニークな議会広報誌「ロクマル」についての取り組みについて聴き入っていました。

また、ブレーメンコンサルティングの岡本氏は、「ＰＲアワードグランプリ 2011」の背景を流れるＰＲのトレンドとしてソーシャル・コミュニケーションＰＲの増大と重要性の拡大を指摘し、社会の道先案内人でもある広報・ＰＲパーソンによるＣＳＲへの精力的な取り組みを訴え、会場より大きな拍手を浴びました。

協会・顕彰委員会よりは、今年度実施予定の「ＰＲアワードグランプリ 2012」の概要が公表され、会場の広報・ＰＲ関係者にプロジェクトへの応募を呼びかけました。「ＰＲアワードグランプリ 2012」には、優れたプロジェクト多数の応募が期待されます。

質疑応答の風景

ブレーメンコンサルティング　岡本氏講演

広報PRアカデミー2012

ＰＲプランナー３次試験対応講座を開講

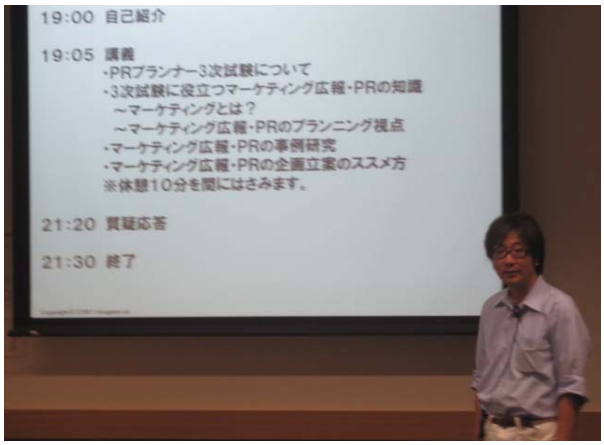
--第 10 回 3 次試験突破をめざし 30 名余が受講中--

教　育　委　員　会

日本ＰＲ協会では、「ＰＲプランナー3 次試験対応講座」を 6 月 6 日より六本木アカデミーヒルズにて開講しました。本講座にはＰＲ協会内外より広報・ＰＲ関係者 30 名余が受講しており、7 月 21 日に実施される第 10 回 3 次試験の突破をめざして準備を進めています。

6 月 6 日及び 13 日には、株式会社ミラソルの代表取締役　田代　順氏が登壇、「ニュースリリースの書き方」をテーマに講義と演習を行いました。初回 6 月 6 日には、ニュースリリースの構成や記載すべき内容等、作成の基礎を講義し、2 日目となる 6 月 13 日にはニュースリリース作成の基礎を確実に身に付けるための演習を実施しました。

また、6 月 20 日及び 27 日には、マーケティング分野における広報・ＰＲ企画の立案作成を学ぶ講座を、株式会社インテグレートのチーフ・プランナー 赤坂幸正氏が担当しています。6 月 6 日には、マーケティングＰＲの基礎とともに課題事例にもとづく計画立案のプロセスについて解説され、6 月 20 日は 3 次試験同様の課題設定のもとに企画立案を行うグループ演習が実施されました。



なお、今回の 3 次対応講座では、インターネットによる「Web 受講サービス」を 20 名余が利用しています。会場から離れた遠隔地からの講座視聴、講義を収録した動画データのアーカイブによる任意時刻の履修など、「Web 受講サービス」の特徴がフルに活用される講座となっています。

7 月 4 日及び 11 日には、㈱電通パブリックリレーションズのシニアコンサルタント岡本 純子氏を講師として、コーポレート分野における広報・ＰＲ企画の立案作成に関する講座が予定されています。第 10 回 3 次試験における本講座の受講者多数の合格が期待されます。

広報PRアカデミー2012

基礎コース「ソーシャルメディア基礎講座 ～ 今さら聞けないSNS ～」を 6 月 21 日に開催

教 育 委 員 会

さる 6 月 21 日（木）当協会会議室にて、「広報ＰＲアカデミー2012 基礎コース『ソーシャルメディア基礎講座　今さら聞けないＳＮＳ』」を石山　香織氏（㈱エイレックス シニア・アカウント・エグゼクティブ）、山本 みやこ氏（㈱エイレックス　シニア・アカウント・エグゼクティブ）を講師に迎え、開講いたしました。

左から、山本　みやこ氏、石山　香織氏

当日は、第 1 部ではＳＮＳ（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の基礎知識として ＳＮＳの種類と特徴やビジネスモデルをご講演いただき、第 2 部からは実際に Twitter のアカウント作成と他のユーザーとのコミュニケーションを行い、休憩をはさみ第 3 部では　Facebook のアカウント作成と他のユーザーとのコミュニケーションはもちろんのこと写真のアップとタグ付け等を学びました。引き続き、第 4 部ではまとめとして、ＳＮＳを利用する際の注意（やってはいけないこと）を、実際の事例をもとにご講演いただき、最後にＳＮＳのこれからと、質疑応答をして終了いたしました。

ご協力いただきました石山 香織様、山本 みやこ様、エイレックスの皆様、大変ありがとうございました。

覚えておきたい用語 最重要 （ Facebook ）

「いいね！」【like】

・友達が投稿した近況や写真などに対し、気軽に共感を伝える機能です。

・「なるほど」、「面白い」、「気に入った」と思えば、即「いいね！」をクリックしましょう。

覚えておきたい用語 （ Facebook ）

・シェア【Share】

シェアすることで友達やファンページの情報を友達に見せることができる。公開範囲は毎回選択できます。

・タグ【tag】

投稿した写真やノートなどに、タグとして友達を登録することができます。例えば、複数の人物が写っている集合写真などに、友達の名前をタグとして設定すると、その友達のウォール上で写真が公開されます。

・グループ【Groups】

複数のユーザーで作るコミュニティ。グループに参加しないと情報を見る事ができず、Facebook ページよりも閉鎖的。mixi のコミュニティのような繋がりです。

・友達リクエスト

Facebook の他のユーザーに自分の友達になってもらうようにリクエストを出す機能です。相手が承認すると Facebook で友達として登録されます

第 6 回ＰＲプランナー交流会を 6 月 22 日に開催
60 名のＰＲプランナーが参加！

資　格　委　員　会

6 月 22 日（金）、アサツー ディ・ケイ 11F ラウンジにおいて、ＰＲプランナーの交流を目的とした「第 6 回ＰＲプランナー交流会」が開催されました。

今回も、18 時半から受付を開始し、仕事を早めに切り上げ参加された方、交流会に参加するためスケジュールを調整しこられた方、企業内で取得され部署全員で参加された方々等で、開会の 19 時には多数の方にお集まりいただきました。

6 回目となる今回も、前半・後半の 2 部構成で実施しましたが、前半には交流会では初めてワークショップ、後半は懇親会をＰＲプランナー交流会　準備委員　丸山 寛之氏（㈱大京）の司会のもと開催いたしました。

前半のワークショップは、㈱野村総合研究所　コーポレートコミュニケーション部長　野村 武司氏を講師に「マシュマロチャレンジ！」を実施いたしました。マシュマロチャレンジとは、「スパゲッティでタワーを作り、最上段にマシュマロを配置。最も高い位置にマシュマロを置けたチームの勝ち！（制限時間 15 分）」という内容で、一定のルールのもとＰＲプランナー同士のアイスブレイクとして実施。各チーム苦戦しつつ、測定、表彰、グループ替えになりました。

続いて、スパゲッティカンチレバー「スパゲッティで端が固定された橋梁の長さ（水平距離）を競え！（制限時間 8 分）」というワークショップを実施。こちらでも各チーム苦戦しつつ、測定、表彰となりました。

マシュマロチャレンジからの学びは、「考えすぎず実際に試してみること・一度作ってみること」が大事。さらにワークショップを通じ、普段交流の無いメンバー同士のコミュニケーションを図るアイスブレイクになりました。

プランナー交流会準備委員の皆様

その後、会場を参加者の皆様にお手伝いいただきながら、パーティ会場へと変更し、後半の懇親会へと移り、赤羽　太郎氏、水谷 幸一氏、風間　聡氏、増茂　洋氏、の交流会準備委員メンバー紹介、ＰＲプランナー交流会　準備委員　増茂　洋氏（㈱ＪＡＬＵＸ）の乾杯後、懇親会となりました。

開催参加申し込み者は、当初 62 名のお申込みをいただきましたが、当日は、企業の方が全体の 48%の 23 名、ＰＲ業の方が全体の 38%の 18 名、行政・団体・学校法人等の方が 15%の 7 名となり、計 48 名が参加される会となりました。

また、終了後にＷＥＢアンケートを実施しました。集計結果やご意見は、次回開催に向け活用したいと思います。

ご協力いただきました関係者および関係各位の皆様、大変ありがとうございました。

今後も、ＰＲプランナー交流会は定期的に開催されていく予定です。

＜第１部（前半）のワークショップについてのコメント＞

・今回のワークショップは、会社に持ち帰っても行えるものだったのでよかった。また、いつもよりも参加者同士の交流がしやすい雰囲気だった。（一般企業）
・「時には考える前に動くことも大事！」という基本を思い出しました。（一般企業）
・トライアンドエラーの重要性を、身をもって感じられた。（一般企業）
・チームのコミュニケーション力を上げるためのアクティビティとして、社内でも取り入れられる内容だった。（PR業界）
・一方的な講義に留まらず、プランナー同士が打ち解けあえるアイスブレイクとして大いに機能したと思います。（PR業界）
・今回のように初対面のメンバー同志が介しても短時間でコミュニケーションが図ることが可能なので、とても良いワークセッションだと思う。（その他団体）

＜第２部（後半）の懇親会の運営内容についてのコメント＞

・とても楽しくて、時間が短く感じました。食べ物が余っていたのがもったいなかったです。しゃべりながらつまめるようなものだと良かったです。（一般企業）
・活気にあふれる懇親会で、多くの広報の方とお知り合いになれたため良かった。（一般企業）
・同じ業務を担当している他社の方々とのコミュニケーションがはかれた。（一般企業）
・PR会社／一般企業／官公庁によって名札が色分けされていたのがわかりやすかった。（PR業界）
・懇親会については歓談が主体であり、特に趣向を凝らす必要もないかと思いますので、現状で特に賛否はありません。一点、食事については（あくまで予算の範囲内で）時折はピンチョスなどのオードブルにするなどしてもよいかと思いました。（PR業界）

会 員 限 定

第 7 回企業部会フォーラム メディア研究会
『ダイレクトメディア Facebook に取り組むJALに学ぶ』

企 業 部 会

去る 6 月 11 日（月）18 時半から、企業部会は六本木ヒルズにおいて「第 7 回企業部会フォーラム メディア研究会」を開催しました。

昨年は、「週刊新潮」編集長、「毎日新聞」論説委員（経済担当）をお招きしたフォーラムを 2 回開催し、それぞれ多くの企業会員の皆様に参加いただきましたが、今回は日本航空株式会社から広報部長 溝之上 正充氏と顧客戦略推進部推進グループ長 浅香 浩司氏をお迎えし、先進的に Facebook に取り組まれてきたご経験を 30 名の会員がお伺いしました。

会 員 限 定

第 140回定例研究会
テレビの新境地を開拓するWBSのフェイスブック戦略
－放送のネット活用とソーシャルメディア運営の極意を学ぶ－

講師：テレビ東京 報道局ニュースセンター
デジタル編集担当部長　鈴木 宏昭 氏

第 140 回定例研究会を 5 月 31 日（木）、六本木アカデミーヒルズ 49 で開催しました。
講師はテレビ東京「ワールド・ビジネス・サテライト」の Facebook を立ち上げた報道局 ニュースセンター デジタル編集担当部長 鈴木 宏昭氏。テーマは「テレビの新境地を開拓するＷＢＳの Facebook 戦略」。参加者は 63 名。

第 141 回定例研究会
記者から見た使える広報、使えない広報
-- 広報担当者が備えるべき要件とは？

講師：日本経済新聞大阪本社 編集局 経済部
編集委員　竹田　忍 氏

第 141 回定例研究会を 6 月 27 日（水）、日本外国特派員協会（ＦＣＣＪ）で開催しました。
講師は日本経済新聞大阪本社 編集局 経済部 編集委員 竹田　忍氏。テーマは「記者から見た使える広報、使えない広報　--広報担当者が備えるべき要件とは？」。参加者は 74 名。

ELトレンド指数で見るキーワード・ランキング
2012 年 5 月度

エレクトロニック・ライブラリーは、2012年5月度の「話題のキーワード・ランキング」を発表しました。

これは、5 月に発行された新聞 96 紙・雑誌約 100 誌のうち、「ＥＬＮＥＴ」に登録されているキーワード約 263 万語のヒット数の増減を数値化した「ＥＬトレンド指数」等をもとに「一般キーワード」と「企業キーワード」に分けて分析したものです。

「一般キーワード」と「企業キーワード」のＴＯＰ10 は以下の通りです。

■ 2012 年 5 月度　ＥＬ一般キーワード　ＴＯＰ10

順位	トレンド指数	キーワード	順位	トレンド指数	キーワード
1位	9.60	金環日食	6位	4.46	大飯原子力発電所
2位	7.04	ツアーバス	7位	4.42	被災地支援
3位	6.88	関越自動車道	8位	4.01	再選挙
4位	6.10	一体改革	9位	3.88	原子力規制庁
5位	5.03	環太平洋連携協定	10位	3.83	政治生命

■ 2012 年 5 月度　ＥＬ企業キーワード　ＴＯＰ10

順位	トレンド指数	キーワード	順位	トレンド指数	キーワード
1位	5.82	陸援隊	6位	1.76	関西電力
2位	2.08	鴻海精密工業	7位	1.75	よしもとクリエイティブ・エージェンシー
3位	2.04	コジマ(家電量販店)	8位	1.71	アサヒグループホールディングス
4位	1.86	佐藤工業	9位	1.64	かんぽ生命保険
5位	1.80	東武鉄道	10位	1.59	グリー

※ＥＬＮＥＴホームページでは毎月の発表を週刊にバージョンアップした上で、
「ＥＬウィークリートレンド」として毎週水曜日に発表しています。
詳細は以下ご参照ください。

http://www.elnet.co.jp/el/trend/index.html

＜コラム　関西の風＞

“民の力”で進化し続ける『通天閣』

(公社)日本パブリックリレーションズ協会
関西部会担当理事　小西池　透
（大阪ガス㈱　理事　広報部長）

4 年近くの東京勤務を終えて、この 4 月に大阪に戻ってきた。久しぶりに関西の空気に触れたのだが、大阪の町並みの変貌ぶりに正直驚いた。キタの新しい玄関口『大阪ステーションシティ』がわずか 1 年で 1 億人を超える来場者を集め、かたやミナミ方面に目を転じると、連日賑わいを見せている大阪市最大級の『あべのキューズモール』が、2014 年春の『あべのハルカス』グランドオープンを今や遅しと待ち構えている。

さながら“リトル・トーキョー”ともいうべき大阪の活気にも慣れてきた先月、ガス事業者の広報担当者が集まる会合を大阪で開催することになり、その幹事役を仰せつかった。地域視察も兼ねた会合だったが、「さてどこを案内しようか」と悩んだあげく、選んだのは『大阪ステーションシティ』でも『あべのキューズモール』でもなく、『通天閣』。無謀（？）にも、今最もホットな話題を集めている『東京スカイツリー』に勝負を挑んだのである。

パリのエッフェル塔と凱旋門を模した初代『通天閣』が竣工したのは、今から遡ること 100 年前の明治 45 年。その後、太平洋戦争中の火災を機に解体され、現在の二代目『通天閣』は高度成長著しい昭和 31 年に完成した。この二代目『通天閣』建設の原動力となったのは、もう一度その雄姿を取り戻したいと夢見た地元商店街の店主達と地域の人々。なかなか資金が集まらない中で設計段階から皆で悩み、創意工夫を重ねた。「日本初の円形エレベーター」や「時計の文字盤日本一」など、新しい『通天閣』はいくつもの「日本初」「日本一」で話題を呼んだという。まさに“民が力を合わせて”再生を果たしたのである。

今や『通天閣』は完全に周囲の街並みにとけこんで、多くの市民や観光客が訪れるスポットとなった。眼下には『通天閣』を中心に同心円を描くように広がる街『新世界』。幾重もの商店街には大衆食堂や娯楽施設、芝居小屋が軒を連ね、旅行客にとっては格安の宿も楽しみの一つだ。地域住民の熱意は今も健在、『通天閣』は進化し続けているのである。

634mの高さを誇る『東京スカイツリー』は、開業後 3 ヵ月先まで予約で一杯という。その人気をこれからもいかに持続していくか、それは地元住民や周辺地域の街に対する熱い思いにかかっている。『東京スカイツリー』がこれから地域とともにどのように発展をしていくのだろう、その姿を関西の空から眺めていこうと思う。

■ 会員便り

㈱タカオ・アソシエイツが「報道分析の手引き」を作成 新たな「広報効果測定値 ＥＴＡモデル」を紹介

会員会社の㈱タカオ・アソシエイツが、このほど「広報効果測定のための報道分析の手引き」（A5 判 44 ページ×2 色、非売品）を作成しました。これは広報効果測定法や報道分析の手法が未だに確立していない中で、一般に用いられている「広告料金換算値」をはじめ、米国の学者などが提唱している「ＰＰＩモデル」（準備・実践・影響の 3 段階評価）や「マクロ・モデル」（インプット･アウトプット･アウトカムの評価）などの問題点を指摘するとともに、新たな広報効果測定法として「ＥＴＡモデル」を提唱したものです。

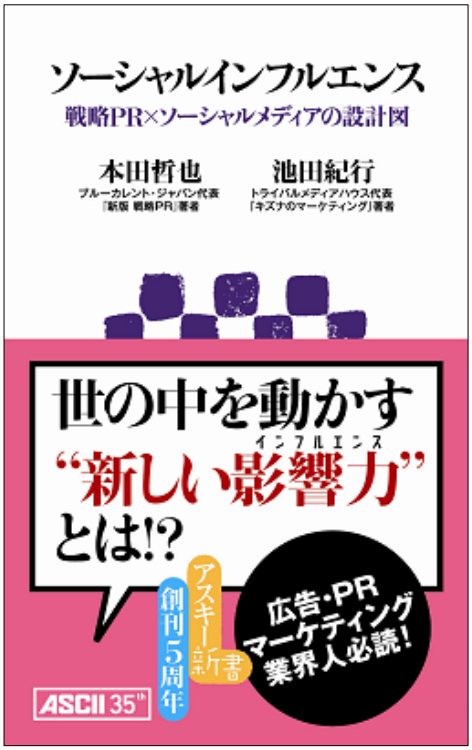
「ＥＴＡモデル」とは、幅広い媒体での露出状況を測る「露出指数」（Exposure to the media）と、報道が大衆に与えるイメージを数値化した「論調指標」（Tone of coverage）、そして影響力のある媒体での露出状況を調べる「広告料金値」（Ad value equivalency）に基づき算出するもので、それぞれの英語の頭文字を取って名づけています。「ＥＴＡモデル」に基づく広報効果測定値は、調査媒体や調査期間を統一することで、ベンチマークとの比較だけでなく、全調査対象企業の測定値分布や平均値などを参考にすることができます。

本書ではほかにも、単独主役記事の区分、論調判断、記事内容の分類、人名・商品名・トピックスなどのアイテム抽出、「インプレッション効果」（1 面掲載や写真の有無）や「レピュテーション効果」（ブランド報道やＣＳＲ報道）などについて言及するとともに、テレビやＷｅｂの分析についても解説しています。

ちなみに本書によると、記事 1 件当たりの平均スペースは、活字の大型化、紙面のビジュアル化、特集企画の増加などで年々大きくなる傾向にあり、直近は 188.4 ㎠であること、記事内容の分類で一番多いのは「商品動向（または事業動向）」（22.4％）で、次に「業界解説」（15.1％）、「経営戦略」（11.7％）と続き、この 3 項目でほぼ半数を占めていることや、論調判断ではプラス記事が 18.8％、マイナス記事が 10.8％、一般記事（ニュートラル）が 70.4％であることなどが、主要企業約 110 社の基準媒体（全国紙､ブロック紙､有力地方紙、産業経済紙、主要ビジネス誌の 21 紙･誌）における掲載記事約 12 万件の報道分析で判明したことが紹介されています。そのほかにも、広告料金換算値の月平均額が約 6,100 万円であることや、ニュースリリースによるインプット情報のうち、記事になる割合（ヒット率）は平均 46.3％、記事全体に占めるアウトプットは平均 35.1％という調査結果も掲載しています。

法人正会員のブルーカレント・ジャパン㈱ 代表取締役社長 本田 哲也氏が「ソーシャルインフルエンス 戦略PR×ソーシャルメディアの設計図」を6 月 11 日発刊（共著：㈱トライバルメディアハウス代表、池田 紀行氏）

企業の広報担当者やソーシャルメディア担当者の中には、ＰＲとソーシャルメディアの連携の可能性を感じてはいるものの、「どうすればうまくそれらを連携させて、最大の効果を発揮させることができるのか」と、悩まれている方も少なくないのではないでしょうか。本書は、このような悩みに少なからぬヒントを与えてくれます。



ソーシャルメディアの登場によって世の中を動かす影響力の「ベクトル」、「範囲」、「スピード」が変わりました。本書はこのような新しい時代の影響力「ソーシャルインフルエンス」の全貌とその方法論、特に戦略ＰＲとソーシャルメディアを連携させる方法について解説します。

ソーシャルインフルエンスの効果測定スキームや、オーストラリアのＮＰＯが自閉症への理解を広めるために行った「コミュニケーション・シャットダウン」キャンペーンの成功事例も参考になります。

序章： 「ソーシャルインフルエンス」の時代
第１章： 影響範囲をデザインする ／ 第２章： ソーシャルメディアマーケティングの今後
第３章： 「戦略ＰＲ」の登場 ／ 第４章： 「ソーシャルインフルエンス」を生み出す
第５章: ソーシャルインフルエンスの明日 ／ 特別鼎談（高広 伯彦×本田 哲也×池田 紀行）

＜書籍概要＞
『ソーシャルインフルエンス 戦略ＰＲ×ソーシャルメディアの設計図』
著 者（共著）：本田 哲也 ／ 池田 紀行
発 行 ：アスキー・メディアワークス（2012 年 6 月 11 日発売）
体 裁 ：新書判
価 格 ：743 円（税別）
ＩＳＢＮ ：978-4048864435
広報担当窓口 ：㈱コミュニケーションデザイン 大久保
TEL：03－5545－1661 FAX：03－5545－1662 mail：ookubo@cd-j.net

編集担当より

本誌の内容に関するご意見・ご希望をお寄せください。
中身の濃い会員誌に育てていきたいと思いますので、
よろしくお願い致します。

広報委員会
Ｅメール　mail@prsj.or.jp
ＦＡＸ　03－5413-2147

※　禁転載

広報ＰＲアカデミー2012　講座概要

コース	コース目標	対象者	講座名		講座概要	開催時期	講座構成	期間	定員
基礎コース	従来、初級・入門編として実施していた座学の集中カリキュラム	PR会社や広報セクション等に入社、配属された新任もしくは経験の浅い広報・PR業務の担当者。広報・PRを基礎から学びたい方	広報・PR基礎講座		企業の新任広報担当者、PR会社等の広報業務従事者に必要な基本的な知識、スキルを3日間で習得する。	4月	[第1日] ・パブリックリレーションズの基礎（90分） ・広報・PR実務と計画立案の基本（90分） ・コーポレート・コミュニケーションズと企業における広報・PR活動の実際（90分） ・インターナル・コミュニケーションの実際（90分） ・広報・PRパーソンの心構えと自己啓発（90分 [第2日] ・PR会社の役割と仕事（90分） ・広報・PRの倫理と法規（著作権等）（90分） ・ニュースリリースの基本作成実習（240分） [第3日] ・新聞、テレビ、雑誌等のメディア特性とメディアリレーションズ（90分） ・ネットの特性と広報における活用（90分） ・メディアリレーションズの基本実習（「実践メディアリレーションズ」）（240分）	全日講座/3日間	60名
		SNS未利用者（初心者）	ソーシャルメディア基礎講座 「今さら聞けないSNS」		Twitter、Facebookの最も基本的な使い方を学ぶ。会員限定。	6月	・広報・PRにおけるｿｰｼｬﾙﾒﾃﾞｨｱ活用概論（60分） ・Twitter、Facebook等の操作実習（120分）	180分	10名
専門・応用コース	従来、中級・上級編として実施していた座学及び演習付きカリキュラム	PRアワード受賞プロジェクトに興味のある広報・PR関係者	［事例研究］広報・PRプロジェクト最新事例セミナー----「PRｱﾜｰﾄﾞｸﾞﾗﾝﾌﾟﾘ表彰企業の取組みに学ぶ----		・「PRアワード2011」のグランプリ、4部門最優秀賞を2回に分けて紹介し、プロジェクト事例の解説し、企画の考え方について学ぶ。	5月・6月	・第1回　PRアワード趣旨/MC部門/イノベーション部門 ・第2回　GP/CC部門/ソーシャル部門	各150分（夜間）	150名
		実務スキルの向上に意欲のある広報・PR関係者	広報・PR実践スキルアップコース	ニュースリリース活用講座 --ネット時代に対応したニュースリリースの活用--	ニュースリリースの概念や基本的な作成法、メディアの種別や特性を学び、ネットとも連動する広報ツールとしてニュースリリースの効果的な活用法を講義と演習を通じて習得する。	9月	講義と演習（240分） 3回一括受講者に対してはパッケージ価格として10%引きとする	240分/1回	60名
				マーケティングPR強化講座 --IMCとソーシャルメディアの活用--	マーケティングPRの概念やソーシャルメディアをはじめとするさまざまなメディアを効果的に活用する活動計画の立案法を、講義と演習を通じて習得する。			240分/1回	60名
				クライシスコミュニケーション強化講座 ---緊急記者会見と危機対応のﾎﾟｲﾝﾄ---	緊急記者会見のシミュレーショントレーニングの経験を通じて、企業や団体の危機的事態における心構え、マスメディアへの対応のポイントについて習得する。			240分/1回	60名
		広報・PRにおけるソーシャルメディアの活用に興味のある方	ソーシャルメディア実践講座		実際に企業や団体の広報、マーケティングの分野で多様なソーシャルメディアを活用しているキーマンによるパネルディスカッションをとおし、活用のポイントや留意すべき問題点について探っていく。	5月～10月（全4回）	・パネルディスカッション（各120分）	夜間　120分	150名
		広報・PRにおける専門的な知識、スキルの習得に意欲があり、プロフェッショナルとして自らの実務能力の向上をめざす方	プロフェッショナル広報・PR実務シリーズ	コーポレート・コミュニケーションの概念と戦略・計画の立案	企業広報の基本となるコーポレートコミュニケーションの概念を企業の実例を交えて解説し、広報戦略や計画の立案のポイントについて習得する。	11月～2月	講義（120分）	19:00～21:00	各60名
				危機管理の心構えとクライシス・コミュニケーション推進のポイント	不祥事や事故、ネットにおける炎上や情報漏洩など、企業団体における危機的事態の原因、成功や失敗について実例を通じて解説し、広報・PR担当者が備えるべき心構えや対応のポイントを習得する。		講義と演習（240分）	17:00～21:00	
				マーケティング/ブランディングを基礎としたコミュニケーションの計画と実施	マーケティングPRのベースとなるマーケティングやブランディングの概念、考え方を解説し、演習をとおしてコミュニケーション計画の立案や活動実施のポイントを習得する。		講義と演習（240分）	17:00～21:00	
				CSR、IRと連携した経営と広報・PR戦略の展開	企業価値の向上に不可欠となっているCSRやIRの企業経営における位置付けや機能を確認し、先進企業のケーススタディをとおして企業をとりまくステークホールダーへのコミュニケーションのポイントを習得する。		講義（120分）	19:00～21:00	
				グロバール企業におけるグループ広報の実際とコミュニケーション戦略	グローバルにグループ展開している日本企業が行うコミュニーション活動について、多様なケーススタディを通じてその戦略立案や計画推進のポイントを学ぶ。		講義（120分）	19:00～21:00	
				企業広報におけるインターネット導入の実際と効果的な活用	マスメディアと共存する新しいメディアとしてWebやソーシャルメディアを企業広報にどのように位置付け、活用していくべきか、実例をとおしてそのポイントを学ぶ。		講義（120分）	19:00～21:00	
				広報・PR活動を評価する効果測定の実際と新技法	広報・PR活動の効果測定の現状と新しい傾向を実例を通して学び、どのように効果測定を実施し活用していくべきかそのポイントを学ぶ。		講義（120分）	19:00～21:00	
PRプランナー試験対応コース	広報・PRに関する知識やスキルを習得させ、PRプランナー資格認定・検定制度試験を合格できる実力を育成する	広報・PR業務に興味を持ち、PRプランナー試験の合格をめざす方	1次試験対応講座		過去問題を活用し、模擬試験と解説で構成。全4回。	7月、1月	演習（120分）	各120分/週1回 4日間（夜間）	60名（会場受講者）
			3次試験対応講座		ニュースリリース、広報・PR計画の立案作成（マーケティング）、広報・PR計画の立案作成（コーポレート）の3テーマを講義と演習でそれぞれ構成。全6回。	6月、12月	講義と演習（150分）	各150分/週1回 6日間（夜間）	60名（会場受講者）

※各講座の詳細につきましては、順次ホームページ（http://event.prsj.or.jp）で発表いたします。

＊カリキュラム及び講師については、変更する場合があります。予めご了承ください。

Copylight © PUBLIC RELATIONS SOCIETY OF JAPAN 2012. All Right Reserved.